

菅平生き物通信

発行者 筑波大学菅平高原実験センター 〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1278-294 Tel 0268-74-2002
Fax 0268-74-2016 ホームページ <http://www.sugadaira.tsukuba.ac.jp/>
編集 池田 雅子 (ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp) © 2011 筑波大学菅平高原実験センター



木を伐るのは悪いこと? 最終回 — 自由貿易に翻弄される自然 —

今の日本は、伐られずに茂るに任せた人工林や里山（天然二次林）ばかりになり、クマゲラが棲む原生林や、カタクリが咲くような人の手が入った里山はめっきり少なくなりました。これまでの三回の連載では、豊かな生き物を守るためには、原生林を伐つてはならないこと、人工林や里山はきちんと伐つて管理するほうが良いことを、色々な理由を挙げて説明してきました。ごく単純に言ってしまうと、そこに棲む生き物が希少種となったので、でもなぜ、珍しくなったのでしょうか。

高のため、かご細工や竹細工などの伝統工芸品も輸入品に負け、放置された竹林は、猛威を振るって周囲の森に侵入しました。その影で、人の手が入った自然で生きながらえてきた生き物がたくさん絶滅しました。



ブナの巨木

ブナの朽木

一九五〇年頃の日本には今よりずっと広い原生林があり、人に使われる里山も広がっていました。しかしエネルギーが化石燃料に転換される燃料革命がおき、里山で薪や炭をとる人はどんどん姿を消しました。また戦後復興の建築ブームによって日本中の原生林が伐られて人工林に転換される「拡大造林」が進み、ところが一九七〇年代後半になって外材が輸入されると木材価格は暴落し、人工林は荒れ果てました。高度成長による円

反対に発展途上国では、1億年の歴史がある広大な熱帯雨林が日本への木材輸出のために姿を消しました。かご細工の原料になる蔓植物や竹も乱獲されました。自由な価格競争を許せば、通貨の安い国では自然のオーバークース、通貨の高い国ではアンダーユースが起きるのが道理です。そもそも森を育てる林業は、



カタクリ

森を壊す林業にコストで勝てません。
いま F T A (自由貿易協定)への加盟が取りざたされ、農業と工業を天秤にかける向きもあります。しかし、水田などの農業生態系には、水源涵養・洪水防止・土壌浸食防止などの公益機能があります。生態系の経済価値というものは目に見えにくいですが、海外では国民総生産を凌ぐという試算もあるくらいです。そもそも人間の存在基盤である自然や生態系を、目まぐるしく揺れ動く経済の浮沈に委ねてしまつて良いものなのでしょうか。経済が地域単位で循環していた時代の豊かな自然・文化・地域社会が、まるで公正と平和の象徴のように言われる自由貿易によってどうなったのか、歴史は教えてくれます。(助教田中健太)

季節の便り

＜アケビコノハ＞

お返事です。
アケビコノハより



には、二対の大きな目玉模様があり、姿勢と相まって、まるでオバケのような面白い姿です。

前回の生き物通信「季節の便り」に掲載された「アケビコノハ」、皆さんは、見つけられましたでしょうか？アケビコノハは、枯葉そっくりの前翅(ぎんし)に、黄色地に黒の隈取(まどろ)の鮮やかな後翅(こうし)というコントラストの美しい、印象的な蛾です。枯葉に似る事で敵から隠れ、いざとなったら派手な後翅(こうし)で相手を驚かす作戦なのでしょう。名前の通り、アケビを食草とし、上田や菅平のように自然の豊かな山間でよく見られます。



アケビコノハ成虫

前翅

後翅

隈取のような模様

早速ウキウキと持ち帰り、センターで飼育しました。当時は、クスサンやカラスアゲハの幼虫も飼育しておりケージ内はとて賑やかでした。アケビコノハやカラスアゲハは、目玉模様がある為におどけた顔や、うっとりした表情にも見え、飼育している愛着が沸きます。もちろん、本当の頭部は、もつと前方の丸くて小さい硬化した部分です。その、小さな頭を器用に動かし、シヤクシヤクシヤクと緑の葉や、柔らかな茎を平らげていく様はとても小気味良いものです。やがて来る

若葉の春、ご家族で「イモムシ道楽」と洒落込んでみるのは如何でしょうか？

アケビコノハ幼虫



腹

胸

頭

尾端

幼虫は威嚇時、前方では鎌首をもたげ、後方で尾端(びたん)を振り上げたS字の姿勢をとります。腹部前方

(文・イラスト 福井眞生子
筑波大学博士特別研究員
筑波大学博士 真下雄太
標本作成)

筑波大学大学院生命環境科学研究科

春の観察会のお知らせ

ここ菅平高原の春は、雪解け5月から、ここで...

筑波大学菅平高原実験センターでは、6月に「春の観察会」を予定しております。詳細は、5月に当センターホームページにてお知らせいたします。沢山の方の、お出でをお待ちしております。

筑波大学 平成23年度 筑波大学公開講座
ナチュラリスト養成講座 開講

講座日程：平成23年5月から平成24年2月までの
毎月第3土曜日

募集人員：30名 / 対象：高校生以上

受講料：6300円 / 保険料：280円

問合せ・申し込み期間：3月22日(火)～31日(木)

受付時間：月～金曜日 午前9時～午後5時

申込方法：所定の申込書にご記入の上
郵送・FAX・メールにて (詳細はお問い合わせください)

〒386-2204 上田市菅平高原 1278-294
筑波大学菅平高原実験センター

Tel：0267-74-2002/Fax：0268-74-2016 (担当：出川・池田)

E-Mail：ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp

*申込書は当センターのHPからもダウンロードできます

平成22年5月に開講した「ナチュラリスト養成講座」の成果発表会と修了式が1月30日(土)に行われました。

ナチュラリスト養成講座 成果発表会 修了式

受講生22名は、成果発表会にむけ、菌類、生物多様性、哺乳類、大明神寮、ススキ草原、昆虫、樹木園、とそれぞれの分野に分かれグループ学習、ポスター制作と準備を進めてきました。

どのグループも内容の検討が深くされたものでした。また、質疑応答も活発に行われ1年間の成果が十分に発揮されたものとなり、内容の濃さ、完成度の高さ、センター教職員一同驚かされました。(池田)



町田龍一郎教授から修了証書が手渡された

大明神の滝ツアー開催

2月3日(木)

の午前、5日(土)の午前、午後の3回大明神の滝ツアーを開催し、総勢84名の参加を頂きました。



大明神の滝の前での解説風景

大明神の滝では、そのダイナミックな姿と蒼く凍った美しさに参加者からは感嘆の声が上がりました。昨年の秋に、外壁の柿渋塗りを行った大明神寮内部の公開も行い、見学者からは歴史ある木造建築物への保存の声も多数寄せられました。(池田)



同時に行われた大明神寮内部の公開

「大明神の滝」はセンターが開催する公開日などを除いて原則非公開となっております。どうぞ、ご了承ください。

スタッフ紹介



研究員 恩田 義彦

私は栃木県出身で、これまで東京都、愛知県、岩手県、青森県、宮城県、そして長野県と転々として来ました。岩手県に移って以降、寒い地域に住むことが多いのです。現在、実験センター内の職員宿舎に住んでいますが、菅平の冬は厳しくマイナス20度以下の気温は骨身に伝えます。研究では、これまで一貫して野外に棲む植物を対象としてきました。現在のミヤマハタザオの研究(創刊号参照)では、日本アルプスで調査することもあり、雄大な景色の中の仕事に喜びを感じています。野外での植物の生き様をじっくり見つめ、研究を進めていきたいと思えます。

編集後記

「春は里から秋は山から」誰に教わったというところでもないのですが、季節の変わり目に思い出す言葉です。

雪が解け畑の黒い土が見えるようになると、ナズナ採りやフキノトウを採りに出かけ、水が温めばドジョウすくいやセリ摘みをして家に持ち帰り、母や祖母の手で調理され食卓に並ぶのを楽しみにしていたことを思い出します。

菅平は、まだ雪の中、春が待ち遠しい三月です。(池田)

東郷堂さんのご協力により、一層多くの皆様に、お読みいただくことが出来るようになりました。今後とも、よろしく願っています。

次号は4月 発行予定です